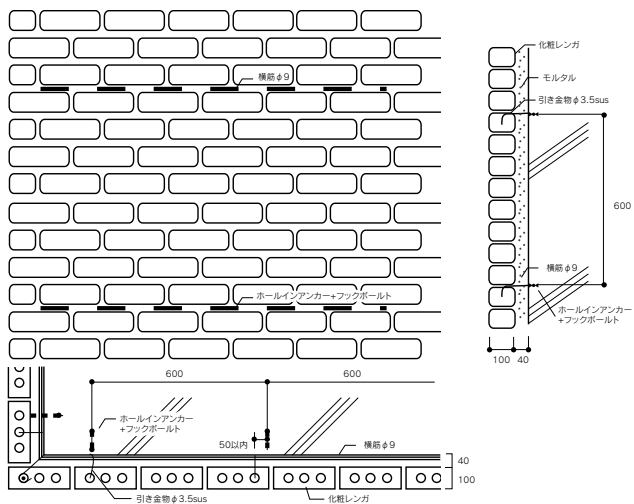


technical date brick [積みレンガ]

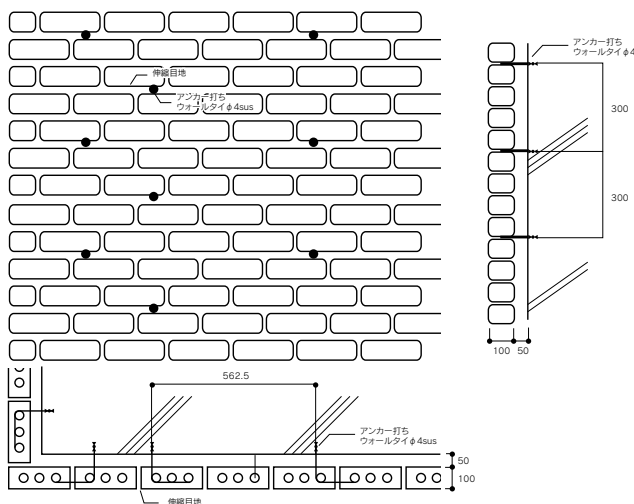
レンガ 積み工法

標準施工図



レンガ 中空積工法

標準施工図



1.材料及び設定

天候:雨天及び2℃以下では原則として施工を行わない。
 装備:高所及び危険を伴う場所での作業は安全の為に装置着用をする。
 資材保管:雨天及び危害を避けられる場所に保管する。
 レンガ:3ホールタイプ(3孔)或いはフロッグタイプ(凹付)とする。
 シーリング:変成シリコン系又はポリサルファイド系とする。

2.下地(コンクリート)

- (1)下地の精度・浮き・亀裂・汚れ等の有無を確認し必要があれば補修する。
- (2)コンクリートの躯体面の防水処理を行う。
(笠木下地、基礎段立上り、開口周り等場合により躯体全面)
- (3)下地配筋はホールインアンカーを使用し、配置等の確認を行う。
セパレーター部分は原則として利用しない。(漏水等の危険のため)

3.下地配筋

- (1)横筋または縦筋(9φ~10φ)を450~600mmピッチで配筋する。
- (2)ホールインアンカーはその強度にもよるが2.5本/m²以上とする。
- (3)ホールインアンカーにフックボルトを設けて横筋または縦筋を溶接する。

4.積みモルタル

骨材粒度	C/S	練置き時間(機械練りを原則)		混和材
		積みモルタル	裏込めモルタル	
2.5mm以下	1/2.5~3.0	1時間以内	1.5時間以内	MC保水剤他

5.レンガ積み

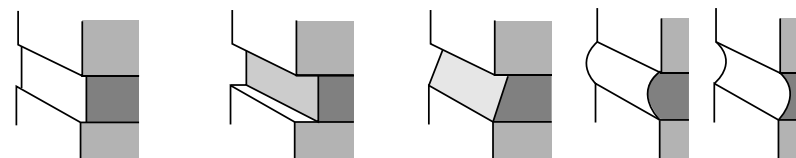
- (1)レンガの吸収率に応じ、適度の水湿しを行う。24h吸収率で8%程度をその目安としモルタルの保水効果を向上させた場合は、水湿しの程度を軽減できる。
- (2)最下段のレンガ積みにあたっては、レンガ工事全体の施工精度を確保するために特に入念に工事を行う。
- (3)図面によるレンガの位置・形状と納まり、金物の配置を確認する。
- (4)積みモルタルが接着面全体に隙間なくゆきわたるように積む。

- (5)レンガ積みの基準とする水糸を正確に張り、役物レンガから積み始める。
- (6)裏込めモルタルは隙間なく充填する。
- (7)一日の積み高さは1.2m以下を原則とする。
- (8)一日の積み終わり面は段逃げとし、裏込めモルタルは内側に勾配を取っておく。

6.目地

6-1目地の形態

積みモルタルが硬化し始めたころ目地コテで所定の形状にかき落とす。



6-2伸縮目地

6-2伸縮目地

- (1)材料のムーブメントを鑑み伸縮目地を設定する。
- (2)コンクリートのひび割れ誘発目地の上は伸縮目地とする。(壁幅3~5m)

7.レンガ重量受けアングル

- (1)レンガとモルタルの重量を考慮の上メンバーを決定する。
- (2)アングルでの支持は1フロア程度毎の高さスパンとする。
- (3)アングル及び補強金物類は防錆材料とし、正確に取り付けられていることが必要。

8.注意

- (1)モルタルが硬化するまではレンガ壁面状態を鑑み、必要があれば養生を行う。
コーナー、開口部等には衝撃等に対する養生を行う。
- (2)レンガの搬入時には必ず材料の確認を行う。
- (3)モルタル及び空練りモルタルの長時間の放置に注意する。
- (4)セメントの追加混入及び施工部位への振り粉は行ってはならない。
- (5)レンガ化粧面に付着したモルタル等の汚れは水洗いを行う。
- (6)レンガ工事はその割り付け、細部納まり、雨仕舞い、補強金物の方法等事前に十分な打合せを必要とする。